

実践産業Ⅲ：プロジェクト・マネジメント 2017

Industrial System III: Project Management 2017

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教

折本 裕一

グリーンアジア実践産業Ⅲ科目では、企業で活躍されている方に講義をお願いすることにより、効果的なコース生教育を目指しています。これまでの3年間(H26～28年度)に引き続き H29 年度の実践産業Ⅲとして、一般財団法人エンジニアリング協会の講座として千代田化工建設株式会社が担当して開講され、千代田化工建設株式会社において30年以上にわたり海外プロジェクトに携わってこられた笛田悦秀氏(プロジェクト工務ユニットコストエンジニアリングセクション・セクションリーダー)に3年連続で講師を担当頂きました。

本講義では、GA 国内・海外コース生合わせて18名が、月1回(各回2コマずつ)、計4回の1単位科目の集中講義としてプロジェクト・マネジメントの基礎から実践までを学びました。第2・4回は全員が筑紫キャンパスに集



まったの講義、他2回は筑紫-伊都キャンパス間の遠隔授業(TV会議システム)として実施されました。

Unit-01では、「プロジェクト」とは何を指すのか?からはじまり、実際に千代田化工建設株式会社の海外プロジェクトの様子を多くの映像資料によって学び、Unit-02ではプロジェクト遂行のための組織づくりについて、またプロジェクトマネージャーに必要な資質について学びました。Unit-03では笛田講師の他、千代田化工建設・田中雄大氏(プロジェクト工務ユニットコストエンジニアリングセクション)の講義補助の

下、学生がチームを作り、ケーススタディを行いました。ある条件下での最適なプラントレイアウトについて、工業プロセス、安全性、環境保全など様々な因子を考慮しながら、設備配置について意見を交わし、チーム独自の回答を発表しました。Unit-04では、作業分解“Work Breakdown Structure”の概念について学びました。Unit-05、06では、プロジェクト実施におけるスケジュール、コスト、リスク等をコントロールする方法についてケーススタディを行い、プロジェクト管理の目的、決められた期間内で効果的に業務を割り振る考え方について学びました。Unit-07では、千代

田化工建設のカタールでの巨大LNGプロジェクトを例として実際のプロジェクトをどのように進めるのか見ていきました。Unit-08では、Unit-05・06の内容に加え、特定の作業工程で遅れが出た場合等を想定した、より実践的スケジュール・コスト管理のケーススタディを行いました。

全8コマと言う限られた時間でしたが、プロジェクト・マネジメントの重要性について知ることができる有意義な講義となりました。本講義では、映像資料や体験談、実践的実習など、多くの工夫がなされており、学生にとって学びやすい講義空間になっていたと感じました。実践産業科目にふさわしい充実した内容で、学生に新たな視点が加わる貴重な機会となりました。



実践産業Ⅲ “Project Management 2017”

4月14日(金) / 筑紫 & 伊都 (TV会議システムによる遠隔授業)	
Unit-01: Orientation - Project Management	(Y. Fueda)
Unit-02: Project organization and Team building	(Y. Fueda)
5月19日(金) / 筑紫	
Unit-03: Case study of project management	(HRM & Y. Fueda)
Unit-04: Scope definition and Work breakdown structure	(Y. Fueda)
6月16日(金) / 筑紫 & 伊都 (TV会議システムによる遠隔授業)	
Unit-05 & 06: Project Control	(Y. Fueda)
7月14日(金) / 筑紫	
Unit-07: Actual project execution	(Y. Fueda)
Unit-08: Case study for actual Project	(Y. Fueda)

(本実践産業Ⅲは一般財団法人エンジニアリング協会の講座として千代田化工建設株式会社が担当して開講しました)